

# 平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:工学部・工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
<b>S</b>	<b>A</b>	<b>S</b>

## 【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、新たな英語コースとして開設する電気電子情報工学専攻(博士前期課程)「グローバルサイエンス&エンジニアリングコース」の学生募集を開始したこと、部局独自に学業や研究、進路などについて悩んでいる学生をサポートする「レジリエンス・サポートルーム(学生支援室)」を昨年度に引き続き運営したことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		融合研究の促進とイノベーションの創出を目指し、延べ4つのアリーナで各アリーナの特徴を出した専攻横断型フォーラムを開催し、多くの参加者を得たことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		すべての専攻に産学官共創大学院コースを設置し、2019年度に実施する大学院博士前期課程・後期課程学生募集要項を作成することで、産学共同研究を通じた新たな人材育成教育システムの準備を整えたことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国際交流委員会を中心として、工学部・工学研究科と海外の大学等との間における部局間学術交流協定の締結を戦略的に推し進め、平成30年度の新規締結協定9件を含めて計90件の部局間学術交流協定を締結していたこと、また、「生物資源と環境プログラム」を始め、その他10プログラムの実施により、学部生及び大学院生を海外の大学に派遣したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		工学部・工学研究科を紹介するギャラリースペースのリニューアルを行ったこと、前年度から開始しているSNSによる広報活動について、定期的に投稿を行い、フォロワー数が大幅に増加したこと及び新たに保護者向け説明会を開催し、工学研究科寄付パンフレットを作成・配付するなど、多くの戦略性が高く意欲的な計画を立案し、それに向けた積極的な取組と成果が見られることが評価できる。

## 【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p><b>【評価コメント】</b>                  外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結した点が高く評価できる。                  常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入件数及び公開講座等の実施件数について、積極的に取り組むことで目標値を上回り、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。</p>
--